

教育・教育活動等の情報公開

1. 教育研究上の目的

建学の精神

『命と向き合う心、知識、技を持った地域医療に貢献できる医療人の養成』

(岐阜保健大学の目的)

岐阜保健大学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に基づき、保健医療に関する専門の理論及び技術を深く教授研究し、並びに豊かな人間性、高潔な人格と専門的能力をかね備えた資質の高い人材を養成することにより、地域の保健医療の向上と福祉の増進に寄与し、その教育研究の成果により、広く地域と社会の発展に貢献することを目的とする。

看護学部

教育目標

看護の深い専門的な知識と技術を備え、生命の尊厳を基盤とした倫理観と心豊かな人間性を身につけた、常に自己研鑽を継続できる高い資質と看護実践能力を持った看護職者を養成すること、またその養成を通じて広く地域と社会の保健・医療・福祉の向上に貢献することを目的とする。

養成する能力

1. 社会に広く貢献するための幅広く深い教養、総合的な判断力及び誠実で豊かな人間性
2. 人間の尊厳と権利を擁護する能力と高い倫理観を基盤としたヒューマンケアの態度
3. 科学的根拠に基づき、看護を計画的かつ安全に実践する能力
4. 個人や家族の健康レベルや生活、地域の特性と健康課題を査定し、より質の高い看護を実践できる能力
5. ケア対象のあらゆる発達段階、健康状態、心理状態に対応して援助できる能力
6. 保健医療福祉チームとの関係性を密にし、連携・協働して社会的ニーズや状況に対応した看護を提供できる能力
7. 看護専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、将来にわたり自己研鑽を継続し、看護実践のための専門性を発展させる能力

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

自主自学の精神に基づき、自律して学ぶ意欲を持つ人を受け入れる。

1. 十分な基礎学力を有し、主体的に学ぶ姿勢を持ち積極的に課題解決しようとする人
2. 看護への強い関心を有し、看護学を学ぶ意欲の高い人
3. 豊かな感性を備え、コミュニケーションを通じて他者と関係を育むことをいとわない人
4. 看護を通じて地域社会に貢献していく志のある人
5. 異なる文化や価値観を理解し、国際社会の発展に保健医療を通じて貢献する意欲がある人

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

1. 教育課程は、基本教育科目、専門教育関連科目、専門教育科目の3科目区分から構成する。

2. 基本教育科目は、人間力や看護する対象の全人的・共感的な理解、コミュニケーション能力の養成のため、人間理解のために「思考力の養成」、「表現力の養成」、「人間力の養成」、「人間の理解」の4科目領域を置く。
3. 専門教育関連科目は、看護の対象理解の基盤として、パートナーシップや科学的な知識や根拠に基づく判断力や対応力を養成するため、「健康と健康障害の理解」と「社会と環境の理解」の2科目領域を置く。
4. 専門教育科目は、科学的根拠に基づく、看護のコアとなる知識と技術である看護実践能力とケア・スピリットを養成するため、看護の理解のために「看護の基本」と「看護の展開」の2科目領域を置き、「看護の展開」の中に、「成人看護学」、「老年看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「精神看護学」、「在宅看護学」の各看護専門分野の科目領域と、看護の統合的理解として、多職種連携・協働、地域社会の特性の理解と地域への貢献、看護専門職者としての成長に重点を置いた、「看護の統合と発展」、「公衆衛生看護学」、「看護研究」の科目領域を置く。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

本学部では、必要な単位を取得し、次の能力を有すると認められた者に、学士（看護学）の学位を授与する。

1. 人間力
人間性豊かで温かく、人間に対する深い畏敬の念を持ち、地域に暮らす多様な人々の生活・文化を尊重し、周囲の人々とコミュニケーションを通して理解し合い、協働することができる。
2. ケア・スピリット
良質で安全なケアの提供を通じて、地域のあらゆる発達段階、健康レベル、生活の場にある人々の健康で幸福な生活の実現に貢献できる。
3. 人間の実践的理解
多様な人々の看護に必要なかつ十分な知識を身に付け、個人、家族、集団、地域について幅広く理解できる。
4. プロフェッショナリズム
看護ケアに必要となる専門的知識と技術を備え、地域の特性の理解を踏まえ、人々の尊厳を擁護する看護実践に活かすことができる。
5. 多職種連携・チームワーク
看護対象者や保健・医療・福祉や生活に関わる全ての人々と連携し協働できる。

教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法

1) 教育課程と配当年次の設定

本学部は、看護師教育に特化した単一のカリキュラム構成となっています。本学部の教育課程は、基本教育科目、専門教育関連科目、専門教育科目の3区分で構成しており、基本教育科目は主に1年次、専門教育関連科目は1年次と2年次、専門教育科目1年次から4年次にかけて配置しており、基本教育科目から専門教育科目へと4年間で体系的な学修が可能となる教育課程としています。講義科目と演習科目・実習科目は、1年次から講義で学んだことを演習・実習で体験し、学びの内容が着実に身に付くように適切に配置しています。すべての授業科目のシラバスを作成し、授業目的・獲得目標、授業の内容、方法、評価方法、事前事後学習を丁寧に記載し、学生の科目履修を支援しています。

2) 授業の方法

本学部における授業方法は、知識の理解と獲得を目的とする科目については、原則として講義形式の授業形態としています。態度・志向性及び技術技能の修得を目的とする科目については、演習形式の授業形態とし、学生の主体的かつ能動的な学びを引き出します。必要に応じて少人数グループ学習、学生の参加学習等の双方向型、アクティブラーニングを重視した学習を展開します。特に看護技術の演習は、指導教員及び助手を複数配置します。その他科目の演習では、専任教員が1～5名の対応で指導に当たります。さらに、技術実習については補講等を行い、達成できるところまで指導します。

3) 授業の内容に応じた学生数

受講する学生の人数については、教育目的を効果的かつ確実に達成するために、授業科目ごとの授業形態に則して、原則として英語科目は20名、講義形式科目は80名、演習形式科目は40～80名、臨地実習では、1か所及び1病棟につき原則として5名（実習科目により増減することはある）とします。

4) 履修科目の登録上限[CAP制]

各科目の単位数に求められる学修時間、自宅学修時間を担保し、4年間を通じた学生の学修効果を高め、学生が無理なく学内及び自宅での学修に励むことができるように、年間の履修単位の上限を54単位、各学期における履修単位の上限を27単位としています。

5) GPA 成績評価

卒業時の学生の質を担保する観点からあらかじめ学生に対し、授業における学習目標や、その目標を達成するための授業の方法、計画等シラバスを通じて明示しています。さらに成績評価基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うため、GPA制度を導入しています。

2. 履修指導

1) 履修指導方法

履修指導の方法は、各学期開始時に行う学生オリエンテーションにおいて、卒業までの履修計画に基づき、各学期に取るべき必修科目、選択科目について詳しく説明し、学生に周知徹底を図ります。本学部は、コース分けのない単一のコース（看護師コース）設定であるため、学生に対しては、必修科目の履修時期や、各学生の興味や関心に従って履修すべき選択科目について助言を行います。本学部では保健師、助産師の資格は取得できないため、3年次、4年次の学生については、卒業後に保健師国家試験受験資格、助産師国家試験受験資格が取得できる大学院・大学専攻科などの情報を提供し、学生個々の将来のキャリア構築を考慮した指導を行います。各学期のオリエンテーション内容は以下の通りです。

（オリエンテーションの内容）

- ・1年次から4年次までの履修計画の全体像について説明する。
- ・各年次において必要な履修科目について説明し、履修の指導を行う。
- ・選択科目の履修の助言を行う。
- ・臨地実習科目の履修に必要な講義科目、演習科目について説明する。
- ・看護師国家試験と試験準備に必要な学修内容について説明する。

2) アドバイザー制の導入

本学部では、アドバイザー（担任）制を採用する。少人数担任制（学生10名に対して専任教員1名をアドバイザーとして配置）により、学生生活や履修方法に関する相談に応じ、学生それぞれの状況に合わせた個別指導の体制を整え、学生の修学を支援する。

3. 卒業要件

1) 卒業要件単位数

卒業要件として必要な授業科目の単位数は、以下とする。なお、講義及び演習は、15 時間から 30 時間までの範囲で定める時間の授業をもって 1 単位とし、実習は、45 時間をもって 1 単位とする。

【卒業要件】 124 単位

	必修科目	選択科目	計
基本教育科目	13 単位	9 単位以上	22 単位以上
専門教育関連科目	22 単位	1 単位以上	23 単位以上
専門教育科目	70 単位	9 単位以上	79 単位以上
	105 単位	19 単位以上	124 単位以上

2) 具体的な履修方法

基本教育科目の必修科目として、4つの科目群において、「思考力の養成」から3科目（3単位）、「表現力の養成」から3科目（3単位）、「人間力の養成」から2科目（3単位）、「人間の理解」から2科目（4単位）を履修し、10科目（13単位）を修得する。

専門教育関連科目の必修科目として、2つの科目群において、「健康と健康障害の理解」から12科目（15単位）、「社会と環境の理解」から6科目（7単位）を履修し、18科目（22単位）を修得する。

専門教育科目の必修科目として、10の科目群において、「看護の基本」から10科目（12単位）、「成人看護学」から5科目（12単位）、「老年看護学」から5科目（8単位）、「小児看護学」から4科目（6単位）、「母性看護学」から4科目（6単位）、「精神看護学」から4科目（6単位）、「在宅看護学」から4科目（6単位）、「看護の統合と発展」から5科目（7単位）、「公衆衛生看護学」から2科目（4単位）、「看護研究」から2科目（3単位）を履修し、45科目（70単位）を修得する。

以上により必修科目として72科目（105単位）を修得し、基本教育科目の選択科目（21単位）の中から9単位以上、専門教育関連科目の選択科目（3単位）の中から1単位以上、専門教育科目の選択科目（14単位）の中から9単位以上、合計19単位以上を選択し、合計124単位以上を修得することを、卒業要件とする。

本学部では、学生の科目選択と自主性を尊重することから、選択科目については選択必修科目、条件付き必修科目等を設定しない。なお、選択科目の分布は、基本教育科目に21単位、専門教育関連科目に3単位、専門教育科目に14単位を配置している（表1参照）。看護学部の教育課程は、3年次は臨地実習、4年次は国家試験の準備や就職活動等で学生の負担が大きくなることから、1年次からの積極的な科目履修を推奨する。

表1 選択科目の学年別開講状況

	選択すべき単位数	選択科目の学年別開講単位数				開講の合計単位数
		1年次	2年次	3年次	4年次	
基本教育科目	9	13	3	1	4	21
専門教育関連科目	1	1	2	0	0	3
専門教育科目	9	0	0	7	7	14
計	19	14	5	8	11	38

4. 本学部の理念、教育目的、教育目標、教育課程の関連

本学部の理念、教育目的、教育目標と教育課程は、以下の図のように関連しています。

<教育理念> <教育目標> <能力> <教育課程>

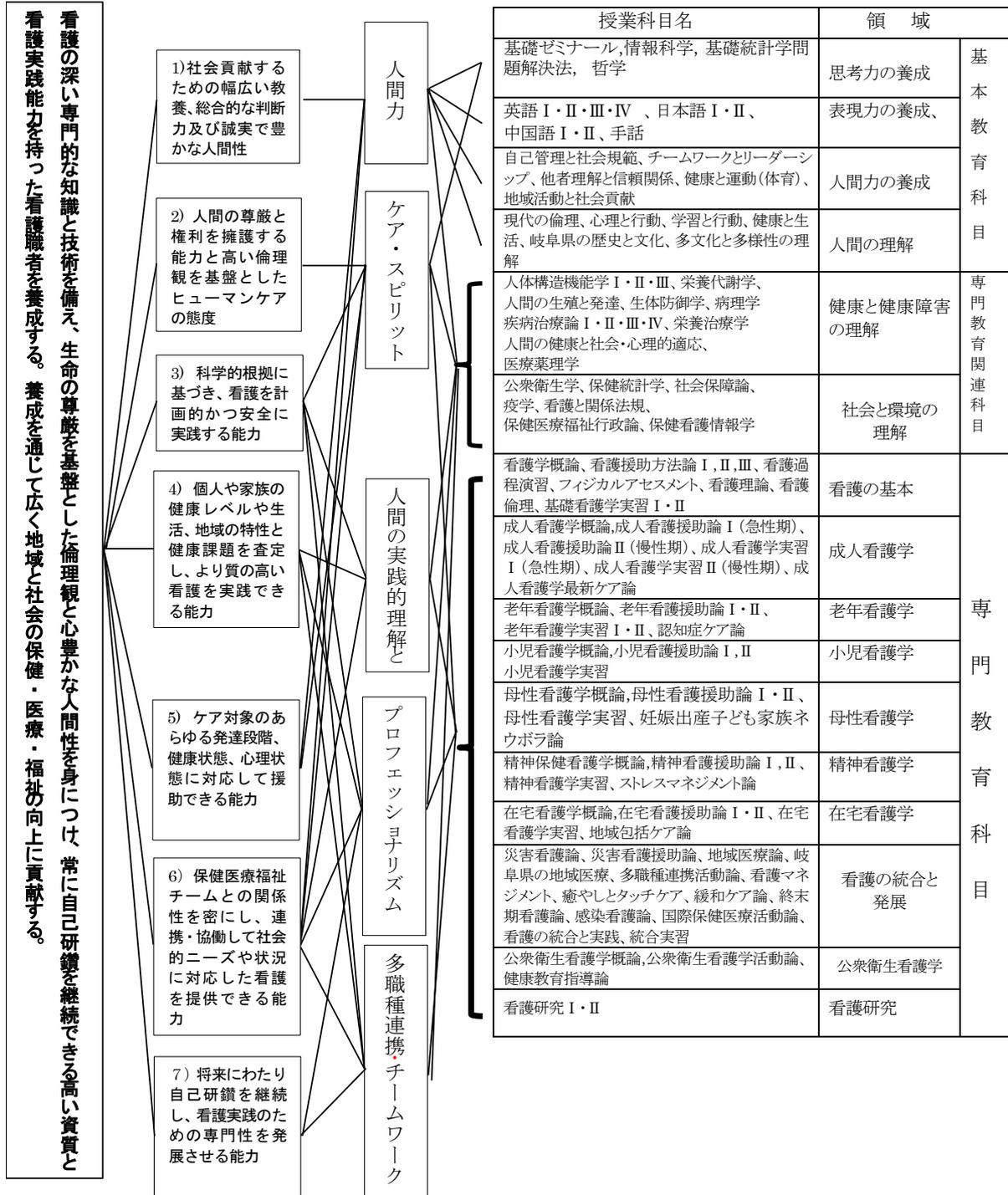


図 看護学部看護学科の教育理念・目標・教育課程との関連

リハビリテーション学部

教育理念

生命の尊厳を基盤とした倫理観をもち、全人的医療に関する知識と技能および態度を備えた理学療法士または作業療法士を養成する。また、その養成を通じて、広く地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献する。

1. 養成人材像（教育目的）

理学療法、作業療法の専門的知識と技術、態度を備え、生命の尊厳を基盤とした倫理観と心豊かな人間性を身につけ、地域の保健・医療・福祉の向上に貢献することのできる高い資質と実践能力を持ったリハビリテーション専門職を養成する。

2. 養成する能力

本学部の教育理念と人材養成の目的の実現のため、学生に対しては、以下の7項目の能力を養成する。両学科ともに、これらの7つの能力を身につけることで、本学部の4項目の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を満たす形となっている。

<本学で養成する7つの能力>

- ①社会に貢献するための幅広く深い教養、総合的判断力及び誠実で豊かな人間性
- ②人間の尊厳と権利と擁護する能力と高い倫理観を基盤としたヒューマンケアの態度
- ③科学的根拠に基づき、理学療法、作業療法を計画的かつ安全に実践する能力
- ④個人や家族の健康レベルや生活、地域の特性と健康課題を評価し、より質の高い理学療法、作業療法を実践できる能力
- ⑤対象のあらゆる心身機能・身体構造・活動・参加に対応して支援できる能力
- ⑥保健医療福祉チームとの関係性を密にし、連携・協働（共働）して社会的ニーズや状況に対応した理学療法、作業療法を提供できる能力
- ⑦リハビリテーション専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、将来にわたり自己研鑽を継続し、専門性を発展させる能力

理学療法学科においては、上記の能力は、改定指定規則に対応した平成31年1月の「理学療法教育モデル・コア・カリキュラム」で示された、理学療法士として求められる基本的な資質・能力である、①プロフェッショナリズム、②理学療法学の知識と技術、③根拠に基づいた解決能力、④質の保証と安全の管理、⑤生涯学習の励行、⑥コミュニケーション能力を踏まえたものとしている。

作業療法学科においては、上記の能力は、平成30年9月の「作業療法士養成教育モデル・コア・カリキュラム」で示された、作業療法士として求められる基本的な資質・能力である、①プロフェッショナリズム、②課題解決能力と学ぶ姿勢、③コミュニケーション能力、④多職種連携、⑤作業療法の質と安全性の管理、⑥社会から求められる役割の認識と実践、⑦科学的探究、⑧生涯にわたって共に学ぶ姿勢を踏まえたものとしている。

学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー

本学の建学の精神と教育理念に基づいて、以下に掲げる知識と技能ならびに態度を身につけ、所定の単位を修得するとともに、それらを総合的に活用してリハビリテーション専門職の責任を果たすことができる者に学士（リハビリテーション学）を授与する。

- DP1：生命に対する尊厳と人間に対する畏敬の念をもち、豊かな人間性のもと、地域および世界の人々と協働するために円滑なコミュニケーションを図ることができる。
- DP2：多種多様なリハビリテーション対象者の支援に必要なかつ十分な基礎および専門的知識を修得し、人々の幸福と健康な生活の実現に貢献することができる。
- DP3：医学・医療の進歩と社会のニーズの変化に対応するため、自己の専門性を発揮し、科学的分析に基づく問題解決能力を磨き、自己実現することができる。
- DP4：リハビリテーション対象者やその家族および保健・医療・福祉に関するあらゆる人々

と連携し協力することができる。

教育課程の編成方針：カリキュラム・ポリシー

建学の精神と教育理念に基づいた学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の実現のため、教育課程を以下に定める。

- CP1：教育課程は「総合科学科目」と「専門科目」の2科目区分から構成し、専門科目は「専門基礎科目」「専門展開科目」を設置し展開する。
- CP2：生命の尊厳や人間への畏敬、他者とのコミュニケーション等の医療人としての基礎的知識と態度の養成のため「基礎ゼミナール」「現代の倫理」「人間関係論」「コミュニケーション論」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」を総合科学科目に設置し展開する。
- CP3：リハビリテーション学の基礎知識を修得するため、人体の構造と機能については「解剖学」「生理学」「運動学」を、疾病や障害の基礎については「病理学」「神経内科学」「整形外科学」を専門基礎科目に設置し展開する。さらに、専門知識と技能を修得するため、理学療法学科、作業療法学科ともに基礎療法学、評価学、治療学を専門展開科目に設置し展開する。
- CP4：理学療法や作業療法に関わる専門的かつ最新の技能および態度を修得するため、治療学の応用としての多様な演習や、総合理学療法学区分、総合作業療法学区分として「実践力演習」「卒業研究」を専門展開科目に設置し展開します。
- CP5：多職種連携と協働の理論のもと、行動力と実践力を養うために地域理学療法学区分、地域作業療法学区分、臨床実習区分を専門展開科目に設置し展開します。

入学者受け入れの方針：アドミッション・ポリシー

リハビリテーション学部では、理学療法学科、作業療法学科ともに、以下のような学生を求める。

- AP1：心身ともに自らの健康管理ができる人
- AP2：人の健康を支援することへの関心をもつ人
- AP3：必要な知識・技術の修得に努力し、自己研鑽を継続できる人
- AP4：仲間との協調性をもてる人
- AP5：地域における人々と暮らしに関心を持てる人

教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法

1) 教育課程と配当年次の設定

本学部の教育課程は、理学療法学科、作業療法学科ともに、大きくは総合科学科目、専門科目（専門基礎科目・専門展開科目）の3区分で構成しており、総合科学科目は主に1年次、専門基礎科目は1年次から2年次、専門展開科目は2年次から3年次、4年次にかけて配置しており、総合科学科目から専門展開科目へと4年間で体系的な学修が可能となる教育課程としている。

講義科目・演習科目・実習科目については、講義で受講した内容を演習・実習で自ら実地に学ぶように構成し、学びの内容が着実に身につくように適切に配置している。また、すべての授業科目のシラバスを作成し、授業目的・到達目標・授業の内容・方法・評価方法・事前事後学習を詳細に記載することで、本学部での学生の学修がより効率的、効果的になるように努める。

2) 授業の方法

本学部における授業方法は、知識の理解と獲得を目的とする科目については、原則として講義形式の授業形態をとる。態度・志向性及び技術・技能の修得を目的とする科目については、演習形式の授業形態とし、学生の主体的かつ能動的な学びを引き出すため、多くの演習科目で複数の教員を配置し、共同形式での授業とする。必要に応じて少人数グループ学習、学生の参加学習等の双方向型、アクティブラーニングを重視した学修を展開し、臨床実習科目は、学外の実習施設での臨床実習となるため有資格者である全ての専任教員が実習施設を巡回し、実習状況の確認や指導にあたる。

3) 授業の内容に応じた学生数

本学部では、両学科とも、受講する学生の人数については、教育目的を効果的かつ確実に達成するために、授業科目ごとの授業形態に則して、適切な人数を設定している。

4) 履修科目の登録上限[CAP 制]

本学部では、両学科ともに、各科目の単位数に求められる学修時間及び自宅学修時間を担保し、4年間を通じた学生の学修効果を高め、学生が無理なく学内及び自宅での学修に励むことができるように、各年次における年間の履修単位の上限を48単位とする。

5) GPA 成績評価

卒業時の学生の質を担保する観点から、あらかじめ学生に対してはシラバスを通じて、授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示している。さらに成績評価基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うためGPA制度を導入している。

2. 履修指導

1) 履修指導方法

履修指導の方法は、各学期開始時に行う学生オリエンテーションにおいて、卒業までの履修計画に基づき、各学期に取るべき必修科目、選択科目について詳しく説明し、学生に周知徹底を図る。本学部は、両学科ともに、コース分けのない単一のコース（理学療法学科は理学療法士コースのみ、作業療法学科は作業療法士コースのみ）設定であるため、学生に対しては、必修科目の履修時期や、各学生の興味や関心に従って履修すべき選択科目について助言を行う。各学期のオリエンテーション内容は以下の通りである。

（オリエンテーションの内容）

- ①1年次から4年次までの履修計画の全体像について説明する。
- ②各年次において必要な履修科目について説明し、履修の指導を行う。
- ③選択科目の履修の助言を行う。
- ④臨床実習科目の履修に必要な講義科目、演習科目について説明する。
- ⑤卒業後の理学療法士国家試験、作業療法士国家試験と試験準備に必要な学修内容について説明する。

2) アドバイザー制の導入

本学部では、両学科ともに、アドバイザー（担任）制を採用する。少人数担任制（学生10名に対して専任教員1名をアドバイザーとして配置）により、学生生活や履修方法に関する相談に応じ、学生それぞれの状況に合わせた個別指導の体制を整え、学生の修学を支援する。アドバイザーの役割と面談の時期は以下に示す通りである。

3. 卒業要件

1) 理学療法学科

4年以上在籍し、総合科学科目から必修科目 13 単位、専門基礎科目から必修科目 35 単位、専門展開科目から必修科目 72 単位の必修科目合計 120 単位以上に加え、地域理学療法学科目から選択科目 1 単位以上、その他の科目から 3 単位以上を修得し、合計 124 単位以上を修得すること。

【卒業要件】 124 単位

必修科目	総合科学科目	13 単位 (必修)	120 単位 (必修)
	専門基礎科目	35 単位 (必修)	
	専門展開科目	72 単位 (必修)	
選択科目	「地域理学療法学」	1 単位以上 (選択)	4 単位以上 (選択)
	全ての選択科目から	3 単位以上 (選択)	
合計		124 単位以上 (必修科目 120 単位+選択科目 4 単位以上)	

2) 作業療法学科

4年以上在籍し、総合科学科目から必修科目 13 単位、専門基礎科目から必修科目 35 単位、専門展開科目から必修科目 71 単位の必修科目合計 119 単位以上に加え、作業療法治療学から選択科目 1 単位以上、地域作業療法学科目から選択科目 1 単位以上、その他の科目から 3 単位以上を修得し、合計 124 単位以上を修得すること。

【卒業要件】 124 単位

必修科目	総合科学科目	13 単位 (必修)	119 単位 (必修)
	専門基礎科目	35 単位 (必修)	
	専門展開科目	71 単位 (必修)	
選択科目	「作業療法治療学」	1 単位以上 (選択)	5 単位以上 (選択)
	「地域作業療法学」	1 単位以上 (選択)	
	全ての選択科目から	3 単位以上 (選択)	
合計		124 単位以上 (必修科目 119 単位+選択科目 5 単位以上)	

2) 具体的な履修方法

(1) 理学療法学科

総合科学科目では、「科学的思考の基盤」領域から必修科目として「基礎ゼミナール」(1 単位)「情報科学」(1 単位)「基礎統計学」(1 単位)を、「人間と生活」領域から「英語Ⅰ」(1 単位)「英語Ⅱ」(1 単位)「教育学概論」(2 単位)「現代の倫理」(2 単位)を、「社会の理解」領域から「人間関係論」(2 単位)「コミュニケーション論」(1 単位)「健康と運動(体育)」(1 単位)を履修する(10 科目 13 単位)。

専門基礎科目では、「人体の構造と機能及び心身の発達」領域の全ての科目、「解剖学」(2 単位)「解剖学演習」「機能解剖学」「機能解剖学演習」「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」「生理学演習」「運動学Ⅰ」「運動学Ⅱ」「運動学演習」「生命倫理」「人間発達学」(全て 1 単位)を必修科目として履修する。

「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」領域についても、全ての科目である「病理学」「感染防御と安全管理」「保健統計学」「臨床心理学」「一般臨床医学」「呼吸循環器内科学」「神経内科学」「整形外科学」「精神医学」「小児科学」「栄養代謝学」「医療薬理学」「診療画像診断学」「救急医学」「リハビリテーション工学」「スポーツリハビリテーション概論」「老年学」(全て 1 単位)を必修科目として履修する。

「保健福祉とリハビリテーションの理念」領域は、必修科目として「リハビリテーション医学」(2 単位)「リハビリテーション概論」(2 単位)「地域包括ケアシステム論」(1 単位)を履修する。

専門基礎科目からは、必修科目として32科目35単位を履修する。専門展開科目では、「基礎理学療法学」領域は、全ての科目「理学療法学概論」(2単位)「表面解剖学」(2単位)「理学療法研究概論」(1単位)「臨床運動学」(2単位)「理学療法教育学」(1単位)「理学療法管理学」(1単位)を必修科目として履修する(6科目9単位)。

「理学療法評価学」領域でも、全ての科目「理学療法評価概論」(1単位)「理学療法評価検査・測定論Ⅰ」(1単位)「理学療法評価検査・測定論Ⅱ」(1単位)「理学療法評価検査・測定演習」(1単位)「理学療法評価演習」(2単位)を必修科目として履修する(5科目6単位)。

「理学療法治療学」領域でも、全ての科目「運動療法学」(1単位)「運動療法学演習」(1単位)「物理療法学」(1単位)「物理療法学演習」(1単位)「日常生活活動学」(1単位)「日常生活活動演習」(1単位)「義肢装具学」(1単位)「義肢装具学演習」(1単位)「リハビリテーション関連機器」(1単位)「理学療法基礎治療技術論」(2単位)「中枢神経系理学療法学」(2単位)「中枢神経系理学療法演習」(1単位)「運動器系理学療法学」(2単位)「運動器系理学療法演習」(1単位)「スポーツ障害理学療法学」(1単位)「スポーツ障害理学療法演習」(1単位)「発達障害理学療法学」(1単位)「発達障害理学療法演習」(1単位)「内部障害理学療法学」(2単位)「内部障害理学療法演習」(1単位)「老年期障害理学療法学」(1単位)「介護予防演習」(1単位)を必修科目として履修する(22科目26単位)。

「地域理学療法学」領域では、「地域理学療法学」(2単位)「地域理学療法学演習」(1単位)「生活環境学」(1単位)を必修科目として履修し、さらに「レクリエーション実践」(1単位)もしくは「多職種連携論」(1単位)のうちいずれかを選択科目として履修する(必修科目3科目4単位、選択科目1科目1単位)。

「臨床実習」領域では、「臨床実習Ⅰ(基礎)」(1単位)「臨床実習Ⅱ(地域)」(1単位)「臨床実習Ⅲ(評価)」(3単位)「臨床実習Ⅳ(応用)」(8単位)「臨床実習Ⅴ(総合)」(8単位)の5科目全てを必修科目として履修する(5科目21単位)。

「総合理学療法学」領域では、「実践力演習Ⅰ」(1単位)「実践力演習Ⅱ」(1単位)「実践力演習Ⅲ」(1単位)「総合演習」(1単位)「卒業研究」(2単位)の5科目全てを必修科目として履修する(5科目6単位)。

専門展開科目からは、必修科目として46科目72単位、選択科目から1科目1単位を履修し、合計73単位を履修する。

上記の合計121単位(必修科目120単位、選択必修科目1単位)に加え、全ての選択科目から学生が自らの興味のある科目として3単位を履修し、合計124単位(必修科目120単位、選択科目4単位)を履修することで、本学科の卒業要件を満たすこととなる。

本学科の教育課程は、3年次と4年次に主となる臨床実習があり、4年次は国家試験の準備や就職活動等で学生の負担が大きくなることから、1年次からの積極的な科目履修を推奨する。1年次から4年次にかけて段階的に専門性を高めていく系統的な履修モデルとしているが、履修モデルの各年次別の履修科目の状況については「履修モデル(理学療法学科)」にて示す通りである。

(2) 作業療法学科

総合科学科目では、「科学的思考の基盤」領域から必修科目として「基礎ゼミナール」(1単位)「情報科学」(1単位)「基礎統計学」(1単位)を、「人間と生活」領域から「英語Ⅰ」(1単位)「英語Ⅱ」(1単位)「教育学概論」(2単位)「現代の倫理」(2単位)を、「社会の理解」領域から「人間関係論」(2単位)「コミュニケーション論」(1単位)「健康と運動(体育)」(1単位)を履修する(10科目13単位)。

専門基礎科目では、「人体の構造と機能及び心身の発達」領域の全ての科目、「解剖学」(2単位)「解剖学演習」「機能解剖学」「機能解剖学演習」「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」「生理学演習」「運動学Ⅰ」「運動学Ⅱ」「運動学演習」「生命倫理」「人間発達学」(全て1単位)を必修科目として履修する。

「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」領域についても、全ての科目である「病理学」「感染防御と安全管理」「保健統計学」「臨床心理学」「一般臨床医学」「呼吸循環器内科学」「神経

内科学」「整形外科」「精神医学」「小児科学」「栄養代謝学」「医療薬理学」「診療画像診断学」「救急医学」「リハビリテーション工学」「スポーツリハビリテーション概論」「老年学」(全て 1 単位)を必修科目として履修する。

「保健福祉とリハビリテーションの理念」領域は、必修科目として「リハビリテーション医学」(2 単位)「リハビリテーション概論」(2 単位)「地域包括ケアシステム論」(1 単位)を履修する。

専門基礎科目からは、必修科目として 32 科目 35 単位を履修する。専門展開科目では、「基礎作業療法学」領域は、全ての科目「作業療法学概論」(2 単位)「表面解剖学」(1 単位)「基礎作業学」(1 単位)「作業療法理論」(1 単位)「基礎作業学演習」(1 単位)「作業療法研究概論」(1 単位)「作業療法教育学」(1 単位)「作業療法管理学」(1 単位)を必修科目として履修する(8 科目 9 単位)。

「作業療法評価学」領域でも、全ての科目「作業療法評価概論」(1 単位)「作業療法評価検査・測定論Ⅰ」(1 単位)「作業療法評価検査・測定論Ⅱ」(1 単位)「作業療法評価検査・測定演習」(1 単位)「作業療法評価演習」(2 単位)を必修科目として履修する(5 科目 6 単位)。

「作業療法治療学」領域では、「日常生活活動学」(1 単位)「日常生活活動演習」(1 単位)「義肢装具学」(1 単位)「装具製作演習」(1 単位)「リハビリテーション関連機器」(1 単位)「中枢神経系作業療法学Ⅰ」(2 単位)「中枢神経系作業療法学Ⅱ」(2 単位)「中枢神経系作業療法演習」(1 単位)「運動器系作業療法学」(1 単位)「運動器系作業療法演習」(1 単位)「内部障害作業療法学」(1 単位)「内部障害作業療法演習」(1 単位)「精神障害作業療法学」(1 単位)「精神障害作業療法演習」(1 単位)「発達障害作業療法学」(1 単位)「発達障害作業療法演習」(1 単位)「老年期障害作業療法学」(1 単位)「ハンドセラピー学」(1 単位)「生活行為向上マネジメント論」(1 単位)の全てを必修科目として履修し、「作業と心身機能」(1 単位)または「作業と神経生理」(1 単位)のいずれかの科目を選択科目として履修する(必修科目 19 科目 21 単位、選択科目 1 科目 1 単位)。

「地域作業療法学」領域では、「地域作業療法学」(2 単位)「地域作業療法学演習」(1 単位)「生活環境学」(1 単位)を必修科目として履修し、さらに「レクリエーション実践」(1 単位)もしくは「多職種連携論」(1 単位)のうちいずれかを選択科目として履修する(必修科目 3 科目 4 単位、選択科目 1 科目 1 単位)。

「臨床実習」領域では、「臨床実習Ⅰ(基礎)」(1 単位)「臨床実習Ⅱ(地域)」(1 単位)「臨床実習Ⅲ(評価)」(6 単位)「臨床実習Ⅳ(応用)」(8 単位)「臨床実習Ⅴ(総合)」(9 単位)の 5 科目全てを必修科目として履修する(5 科目 25 単位)。

「総合作業療法学」領域では、「実践力演習Ⅰ」(1 単位)「実践力演習Ⅱ」(1 単位)「実践力演習Ⅲ」(1 単位)「総合演習」(1 単位)「卒業研究」(2 単位)の 5 科目全てを必修科目として履修する(5 科目 6 単位)。

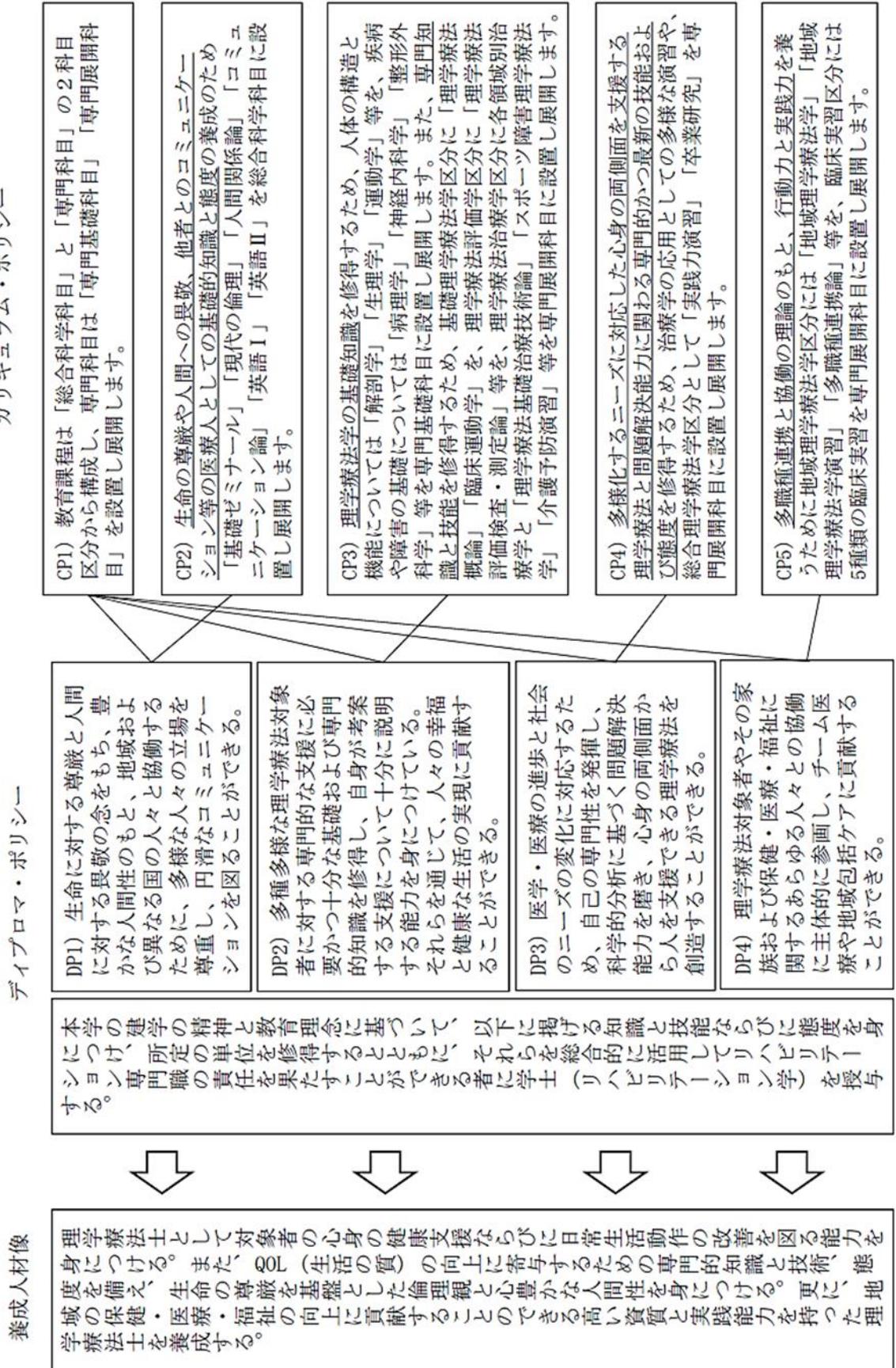
専門展開科目からは、必修科目として 45 科目 71 単位、選択科目から 2 科目 2 単位を履修し、合計 73 単位を履修する。

上記の合計 121 単位(必修科目 119 単位、選択必修科目 2 単位)に加え、全ての選択科目から学生が自らの興味のある科目として 3 単位を履修し、合計 124 単位(必修科目 119 単位、選択科目 5 単位)を履修することで、本学科の卒業要件を満たすこととなる。

本学科の教育課程は、3 年次と 4 年次に主となる臨床実習があり、4 年次は国家試験の準備や就職活動等で学生の負担が大きくなることから、1 年次からの積極的な科目履修を推奨する。1 年次から 4 年次にかけて段階的に専門性を高めていく系統的な履修モデルとしているが、履修モデルの各年次別の履修科目の状況については「履修モデル(作業療法学科)」にて示す通りである。

4. 本学部の養成人材像とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの関連図

理学療法学科における養成人材像、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連図



作業療法学科における養成人材像、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連図

養成人材像

対象者となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為の向上を図り、全人的支援を通じて健康と幸福度を促進し、人生の満足感を高めることに寄与するための専門的知識と技術、態度を備える。更には、生命の尊厳を基盤とした倫理観と心豊かな人間性を身につけ、地域の保健・医療・福祉の向上に貢献することのできる高い資質と実践能力を持った作業療法士を養成する。

本学の建学の精神と教育理念に基づいて、以下に掲げる知識と技能ならびに態度を身につけ、所定の単位を修得するとともに、それらを総合的に活用してリハビリテーション専門職の責任を果たすことができる者に学士（リハビリテーション学）を授与する。

ディプロマ・ポリシー

1) 生命に対する尊厳と人間に対する畏敬の念をもち、豊かな人間性のもと、地域および異なる国々の人々と協働するために、多様な人々と立場を尊重し、理解することを通して円滑なコミュニケーションを図ることができる。

2) 多種多様な作業療法の実践に必要な基礎および専門的知識を修得している。また、人々にとって目的や価値を持つ生活行為の向上に貢献するために、対象者の生活行為に最も近くから寄り添う視点を持つ専門職としての技術と態度を身につけている。

3) 医学・医療の進歩と多様性に基き、個別的・社会的ニーズの変化に対応するため、作業療法の専門性を発揮し、科学的分析に基づき問題解決能力を身につけている。更に、作業療法に対する探求心と研究心を備えている。

4) 作業療法対象者やその家族および保健・医療・福祉に関するあらゆる人々と協働するための専門的知識と技能を身につけている。また、論理的思考により様々な問題を解決できる行動力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

1) 教育課程は「総合科学科目」と「専門科目」の2科目区分から構成し、専門科目は「専門基礎科目」「専門展開科目」を設置し展開します。

2) 生命の尊厳や人間への畏敬、他者とのコミュニケーション等の医療人としての基礎的知識と態度の養成のため「基礎ゼミナール」「現代の倫理」「人間関係論」「コミュニケーション論」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」等を総合科学科目に設置し展開します。

3) 作業療法の対象となる人々の理解と支援に必要な基礎知識を修得するため、人体の構造と機能については「解剖学」「生理学」「運動学」等を、疾病や障害の基礎については「生理学」「神経内科学」「整形外科学」等を専門基礎科目に設置し展開します。また、対象者にとって価値や目的を持つ生活行為を向上させるための知識と技能及び生活に寄り添う視点を身につけるために、基礎作業療法学区分に「作業学」「作業療法理論」等を、作業療法評価学区分に「作業療法評価検査・測定論」等を、作業療法治療学区分に各領域別治療学と「作業と心身機能」「作業と神経生理」「生活行為向上マナネジメント論」を専門展開科目に設置し展開します。

4) 多様化する個別的・社会的ニーズに対応した実践的作業療法と問題解決能力ならびに作業療法への探求心と研究心に関わる専門的かつ最新の技能および態度を修得するため、治療学の応用としての多様な演習や、総合作業療法学区分として「実践力演習」「卒業研究」等を専門展開科目に設置し展開します。

5) 多職種連携と協働の理論のもと、論理的思考に基づき行動力を養うために地域作業療法学区分には「地域作業療法学」「地域作業療法学演習」「多職種連携論」等を、臨床実習学区分には5種類の臨床実習を専門展開科目に設置し展開します。

岐阜保健大学短期大学部

教育理念

豊かな人間性と想像力を備えた資質の高い保健医療技術者を育成するとともに、地域に開かれた大学として生涯学習の機会を提供することにより、地域の人々の健康、福祉の向上に寄与する。

理学療法士・作業療法士が関与する様々な分野での高度な知識や技術に精通した専門職を養成するとともに、人間性豊かな自己実現に向けて前向きな努力を示す「人」の育成を目的とする。そのためには、「人の理解」「人との協力」「人の科学的分析」の視点で教育を進めることにより、高齢化、国際化、情報化と社会情勢の変化に的確に対応できる知識・技術と豊かな人間性を兼ね備えた保健医療技術者を育成することをめざす。

《 リハビリテーション学科の教育目標 》

- 1) 人間と社会に対する深い理解と生命の尊厳の認識を深め、人としての権利を尊重できる保健医療技術者の育成。
- 2) 高度・専門医療に対応し得る幅広い知識・技術を備えた保健医療技術者の育成。
- 3) 進んで自ら学ぶ精神と態度を身につけ、高齢化、国際化、情報化等時代の変化に的確に対応できる保健医療技術者の育成。
- 4) 保健医療チームの一員として他職種と協調し、自ら考え積極的に保健医療活動を実践できる保健医療技術者の育成。

3つのポリシー

アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)

本学は、以下のような資質を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- 1) 対人関係を良好に保つ能力を備えた人。人間(ヒト)に深い関心と畏敬の念を持ち、多様な価値観や文化的背景を理解し、人との出会いを通じて学び合おうとする人。
- 2) 資格取得に向けた高い意欲を持ち続けられる人。リハビリテーション学に対する知的好奇心が旺盛で、課題に向かって主体的に行動できる人。
- 3) 論理的思考を遂行するための基礎的な学力を備えた人。絶え間なく進歩する医学を理解していくための基礎学力を有し、それらを探求する姿勢のある人。

カリキュラムポリシー(教育課程編成方針)

本学のカリキュラムはリハビリテーション学科のそれぞれの教育理念・教育目標に基づき、基礎から専門・応用へと段階的に学習し、実践的な医療人になるための編成です。基礎的な学習では、「総合科学科目」として社会生活に有用な、幅広い視野と協調性を有した人材の育成を目的とした科目を配置します。さらに、専門科目は、専門基礎科目として臨床での実践力の基礎となる科目を学習し、ついで専門知識・技能を身に付け、判断力・実践力を持つ専門職業人となるため、専門展開科目を配置します。

「総合科学科目群」

「外国語」「情報科学」「人間と文化」「現代社会と人間」「環境と科学」から構成され、高等学校からの連携教育を図りつつ将来、人間(ヒト)を対象とする職業に就くことを誇りに思い、あらゆる健康状況にある人たちおよび様々な医療専門職者との積極的な連携・協働を可能にする積極性と協調性・コミュニケーション能力を育成する科目群です。「専門基礎科目」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復過程」「保健医療福祉制度」から構成され、生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観を培い、エビデンスに基づいた技術を展開できる能力を育成する科目群です。「専門展開科目」リハビリテーション学科では「評価」から「治療」に及ぶ科目を習得し、臨地実習及び臨床実習を通して医療従事者として保健・医療・福祉の現場で生じる問題に対応し、実践的に処理できる能力を育成する科目群で

す。以上 3 種の科目群を通して、国家資格を取得しキャリア形成することを意識し、医療従事者として地域社会に貢献できる人材を育成するカリキュラム構成です。ディプロマポリシー（学位授与方針） 本学の学則に定める卒業要件に必要な単位を修得し、卒業までに以下の能力を備えた学習者に「短期大学士」の学位を授与します。1) 人間(ヒト)に深い関心を持ち、多様な価値観や文化的背景を理解でき、幅広い教養を身につけている。2) 科学的思考に基づく判断力と問題解決能力を身につけている。3) 卒業後に医療従事者として生涯にわたり研鑽を積み、保健・医療・福祉の分野に貢献できる能力を身につけている。

2. 教育研究上の基本組織

学部・学科・専攻	入学定員	修業年限	区 分	収容定員
看護学部看護学科	80名	4年	昼間・共学	320名
リハビリテーション学部 理学療法学科	60名	4年	昼間・共学	240名
リハビリテーション学部 作業療法学科	30名	4年	昼間・共学	120名
短期大学部リハビリテーション学科 (理学療法専攻)	60名	3年	昼間・共学	180名
短期大学部リハビリテーション学科 (作業療法専攻)	30名	3年	昼間・共学	60名

※短期大学部リハビリテーション学科は令和3年度募集停止。

3. 教員組織・教員数並びに各教員が有する学位及び業績

専任教員数

2021年5月1日現在

職位	性別	看護学部看護学科	リハビリテーション学部 理学療法学科	リハビリテーション学部 作業療法学科	短期大学部 リハビリテーション学科 (理学療法専攻)	短期大学部 リハビリテーション学科 (作業療法専攻)
教授	男性	3名	4名	2名	5名	1名
	女性	9名		1名		1名
准教授	男性					
	女性	2名				
講師	男性	2名		1名	3名	
	女性	7名		1名		1名
助教	男性	1名	2名		1名	1名
	女性	4名			1名	1名
助手	男性					
	女性					
計	男性	6名	6名	3名	9名	2名
	女性	22名		2名	1名	3名
合計		28名	6名	5名	10名	5名

専任教員数の年齢構成

2021年5月1日現在

年齢	性別	看護学部看護学科	リハビリテーション学部理学療法学科	リハビリテーション学部作業療法学科	短期大学部リハビリテーション学科(理学療法専攻)	短期大学部リハビリテーション学科(作業療法専攻)
31～40歳	男性		1名	1名	1名	
	女性				1名	
41～50歳	男性				1名	1名
	女性					2名
51～60歳	男性		1名		6名	
	女性			1名		1名
61歳以上	男性		4名	2名	1名	1名
	女性			1名		
計	男性		6名	3名	9名	2名
	女性			2名	1名	3名
合計			6名	5名	10名	5名

4. 入学者受入方針及び入学者数、収容定員及び在学する学生の数、卒業生数、就職の状況

入学者数(2021年度入学者選抜状況)

2021年5月1日現在

	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
	男	女	男	女	男	女	男	女
看護学部 看護学科	228名		211名		144名		84名	
	58名	170名	57名	154名	33名	111名	21名	63名
リハビリテーション学部 理学療法学科	134名		122名		98名		56名	
	88名	46名	76名	46名	63名	35名	38名	18名
リハビリテーション学部 作業療法学科	43名		41名		28名		10名	
	21名	22名	19名	22名	13名	15名	4名	6名

在学生数

2021年5月1日現在

		看護学部 看護学科	リハビリ テーション学 部理学療法 学科	リハビリテ ーション学 部作業療法 学科	短期大学部 リハビリテ ーション学 科（理学療 法学専攻）	短期大学部 リハビリテ ーション学 科（作業療 法学専攻）	合 計
入学定員		80名	60名	30名	0名	0名	170名
収容定員		240名	60名	30名	120名	60名	510名
1年次	男	21名	38名	4名			63名
	女	64名	18名	6名			88名
2年次	男	14名			43名	10名	67名
	女	63名			20名	7名	90名
3年次	男	19名			30名	6名	55名
	女	72名			18名	15名	105名
4年次	男						
	女						
計	男	54名	38名	4名	73名	16名	185名
	女	199名	18名	6名	38名	22名	283名
合 計		253名	56名	10名	111名	38名	468名

卒業生数・就職者数・就職状況

2021年5月1日現在

	短期大学部看護学科	短期大学部リハビリテ ーション学科（理学療 法学専攻）	短期大学部リハビリテ ーション学科（作業療 法学専攻）
卒業生数	92名	12名	16名
就職希望者数	49名	12名	16名
就職者数	49名	9名	11名
就職率	100.0%	75.0%	68.8%

5. 授業料・学費等

入学検定料（2022年度予定）

看護学部・リハビリテーション学部共通

総合型入試、特別奨学生入試、推薦入試、一般入試、社会人入試	30,000円
大学入学共通テスト利用入試	15,000円

入学金・学費（2022年度予定）

【看護学部看護学科】

年次	1年次		2年次		3年次		4年次		4年間 合計
	前期 (入学時)	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
入学金	200,000円	—	—	—	—	—	—	—	
授業料	350,000円	350,000円	350,000円	350,000円	350,000円	350,000円	350,000円	350,000円	
施設費	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	
教育充実費	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	
演習・実習費	100,000円	100,000円	100,000円	100,000円	100,000円	100,000円	100,000円	100,000円	
合計	900,000円	700,000円	700,000円	700,000円	700,000円	700,000円	700,000円	700,000円	
年間納入額	1,600,000円		1,400,000円		1,400,000円		1,400,000円		5,800,000円

その他の諸費用230,000円(学用品代(ユニフォーム2着、ポロシャツ2着、靴、聴診器、実習用消毒液、解剖実習用エプロン、実習要項等)、抗体検査料、総合補償制度保険料(4年分)、入学前教育(eラーニング)、ICT教育費用、国家試験対策費用制及び後援会費用(30,000円)を入学手続き時に徴収します。

【リハビリテーション学部】

年次	1年次		2年次		3年次		4年次		4年間 合計
	前期 (入学時)	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
入学金	200,000円	—	—	—	—	—	—	—	
授業料	350,000円	350,000円	350,000円	350,000円	350,000円	350,000円	350,000円	350,000円	
施設費	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	
教育充実費	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	
演習・実習費	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	125,000円	
合計	925,000円	725,000円	725,000円	725,000円	725,000円	725,000円	725,000円	725,000円	
年間納入額	1,650,000円		1,450,000円		1,450,000円		1,450,000円		6,000,000円

上記のほか、

理学療法学科その他の諸費用260,000円(学用品代(ユニフォーム2着、ポロシャツ2着、靴、義肢装具材料費、病院実習用消毒液、解剖実習用エプロン、ゴーグル、実習要項等)、抗体検査料、総合補償制度保険料(4年分)、入学前教育(eラーニング)、ICT教育費用、国家試験対策費用)を入学手続き時に徴収します。

作業療法学科その他の諸費用280,000円(学用品代(ユニフォーム2着、ポロシャツ2着、靴、スプリント用品、手工芸材料費、病院実習用消毒液、解剖実習用エプロン、ゴーグル、実習要項等)、抗体検査料、総合補償制度保険料(4年分)、入学前教育(eラーニング)、ICT教育費用、国家試験対策費用)を入学手続き時に徴収します。